

子どもたちや若者に対する学習・体験活動に関する地域支援者意識調査

2020年4月20日

大正大学エンrollment・マネジメント研究所

専任講師 出川 真也

1. 趣旨・目的

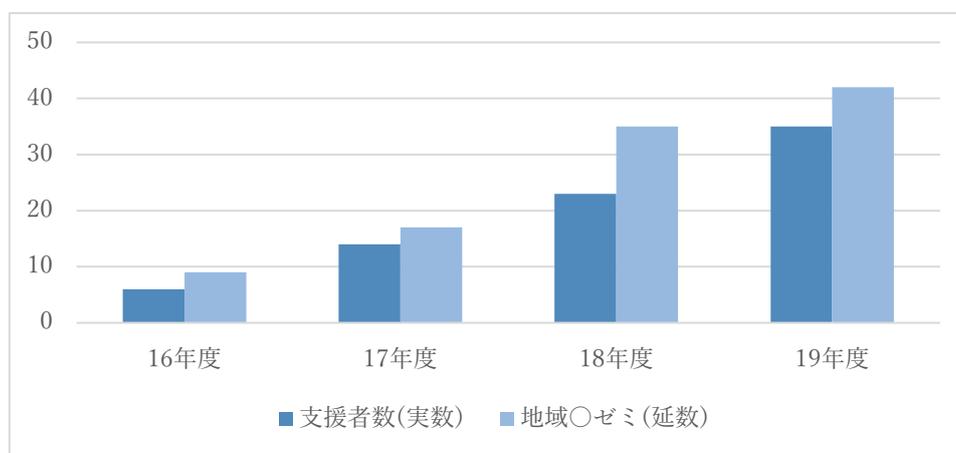
唐桑町まちづくり協議会と一般社団法人まるオフィスでは、唐桑地域の子どもたちや若者たちに対する学習・体験活動を、地域住民と共に行ってきた。取組5年の節目を迎えて、唐桑地域における地域教育に関して、地域支援者の声を踏まえた今後の取組の方向性を検討するため、これまでの活動成果について可視化を図るための調査を行うこととした。

調査に当たっては、まるオフィスと大正大学エンrollment・マネジメント研究所出川が連携し、地域学習支援者との協力の下で調査設計から実施・集計分析までを行った。

2. 調査対象

唐桑町まちづくり協議会、まるオフィススタッフ、地域学習支援者（住民）。

地域学習支援者数の変化は図表1の通り。参考までに地域学習活動「地域〇ゼミ」の協力者延べ数で抽出し提示した。



図表1 地域学習支援者（実数）及び地域〇ゼミ支援者数（延数）

3. 調査方法

ヒヤリングとロジックモデルシートを用いたワークショップ及びアンケート調査を組合わせた参加型地域教育アセスメント（評価）調査手法により実施（※文末付録資料参照）。

4. 調査の実施経過

調査は以下の5段階を経て、設計から実施・分析に至るまで、団体スタッフ、公民館活動関係者、地域学習の支援者等の参加型で実施された。

- (1) スタッフヒヤリングの実施と調査の全体設計：2019年6月
ヒヤリング及びロジックモデルシートを用いたワークショップによる活動概況の把握
調査目的の設定、地域学習支援者の意識調査の必要性の確認、全体調査設計
- (2) 地域学習支援者モニターヒヤリング：2019年11月
ロジックモデルを用いたヒヤリングによる調査項目・指標の導出
- (3) 調査票設計：2020年1-2月
地域学習支援者調査アンケートの設計
- (4) アンケート調査の実施：2020年2-3月実施
- (5) 集計分析（3-4月）

5. アンケート調査の結果

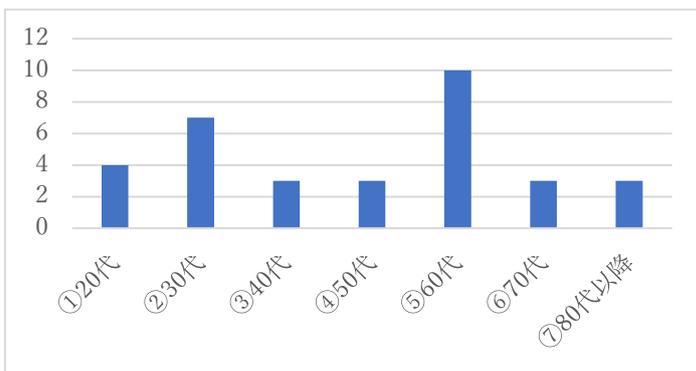
ロジックモデルを用いたスタッフワークショップ及びモニター支援者によるヒヤリングにより、基本情報と自由記述回答の他、5分野15項目からなる調査票を設計した。

基本情報	年齢・性別・職業
	携わった活動内容
	携わった回数
1 子どもたちや保護者に対する認識や意識	(1)子どもたちや若者の地域での学びに寄与できた
	(2)自分自身にとっても地域を学ぶことにつながった
	(3)子どもの保護者世代とのつながりが深まった
2 地域に対する意識変化	(1)地域の資源や価値を掘り起こすことにつながった
	(2)自身の地域に対する愛着を高めることにつながった
	(3)自身の地域での役割や責任を感じるようになった
3 地域活動への効果に対する認識や実感	(1)地域団体間の連携・協力が強まった
	(2)行政・教育機関（学校や公民館など）との連携・協力が強まった
	(3)地域課題の解決に役立った
4 自身の仕事や生業への効果に対して抱いた認識や実感	(1)自身の仕事や生業の課題を再認識するようになった
	(2)自身の仕事や生業の価値を再認識するようになった
	(3)自身の仕事や生業の新たな発展に役立った
5 将来展望に対する認識や実感	(1)次世代も地域に住み続けてほしいという気持ちになった
	(2)地域継承に役立った
	(3)担い手育成に役立った
取組を通じて考えたことや意見など	自由記述

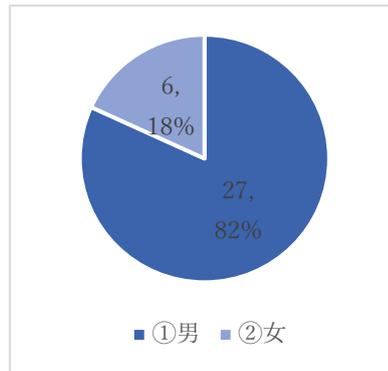
図表2 調査票の質問項目

選択項目の回答方法としては、①良く当てはまる・②当てはまる・③どちらともいえない・④あまり当てはまらない・⑤全く当てはまらない、の5段階選択回答を求めるものとした。分析に当たっては回答選択に対応して5点～1点を付与し計測するものとした。なお、未回答項目については除外して算定する操作を行っている。

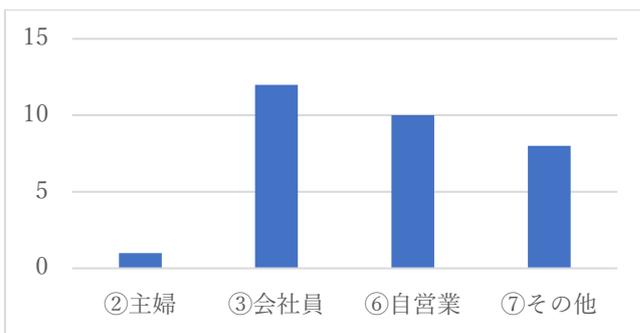
33名からの回答を得られた。基本情報は以下のとおり。



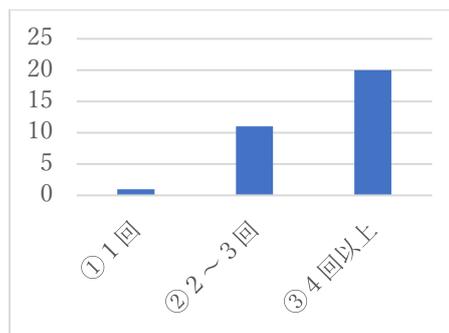
図表3 年代構成 n=33



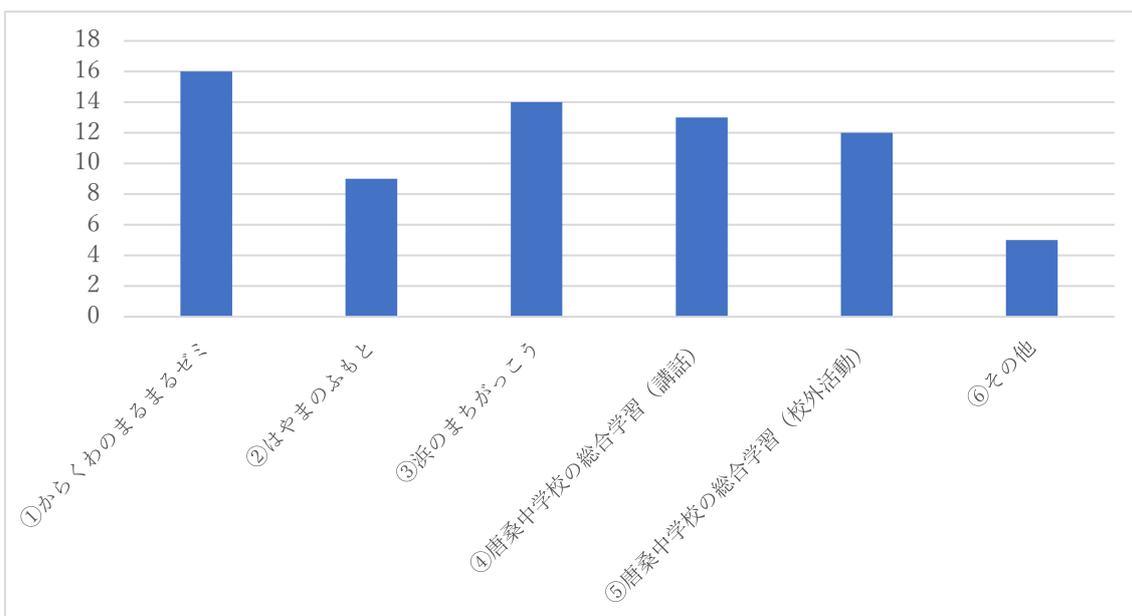
図表4 男女構成 n=33



図表5 職業構成 (SA)



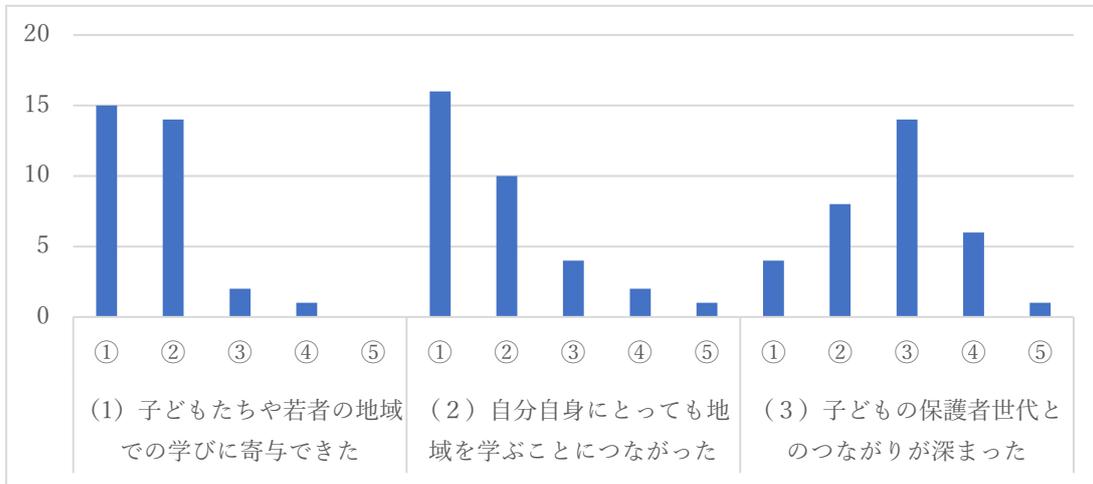
図表6 参加回数(SA)



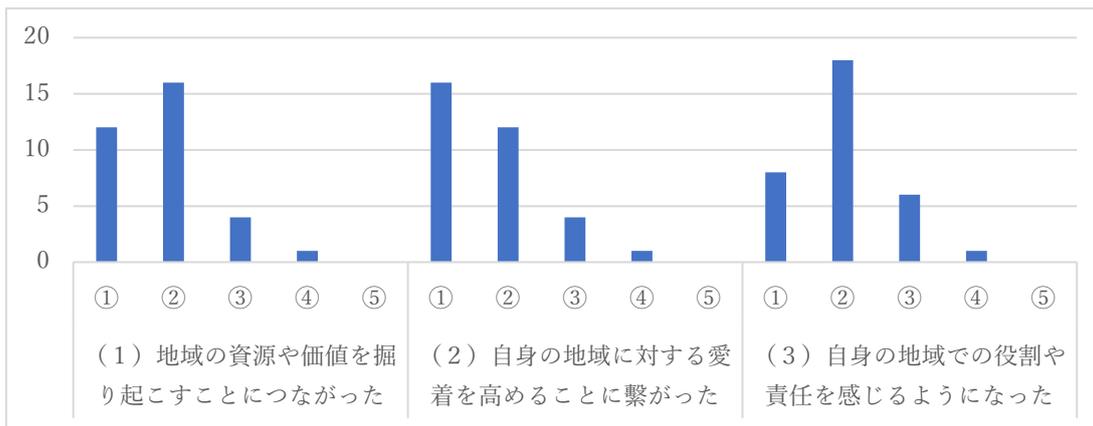
図表7 参加プログラム内容 (MA)

5-1. 回答者全体の単純集計結果

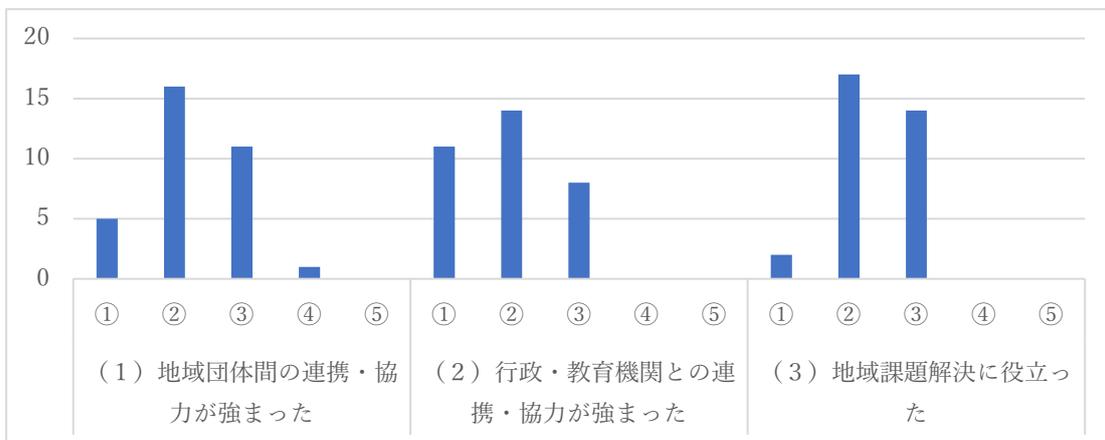
(1) 子どもたちや保護者に対する認識や意識



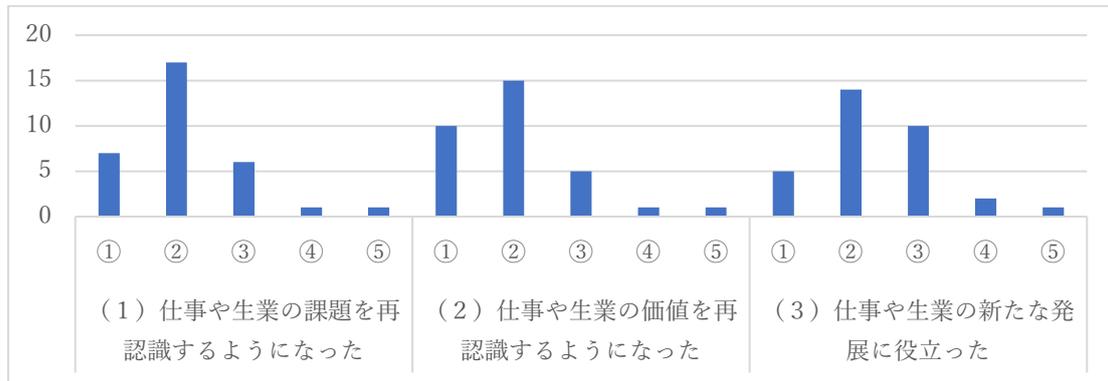
(2) 地域に対する意識変化



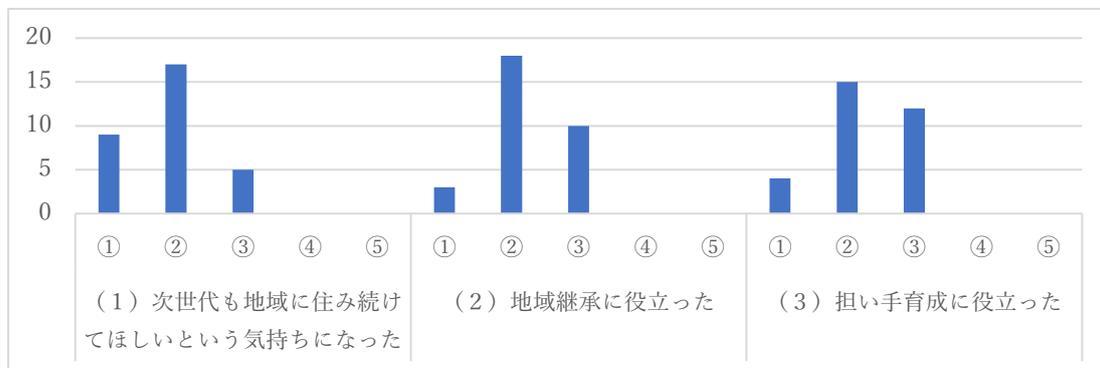
(3) 地域活動への効果に対する認識や実感



(4) 自身の仕事や生業への効果に対して抱いた認識や実感

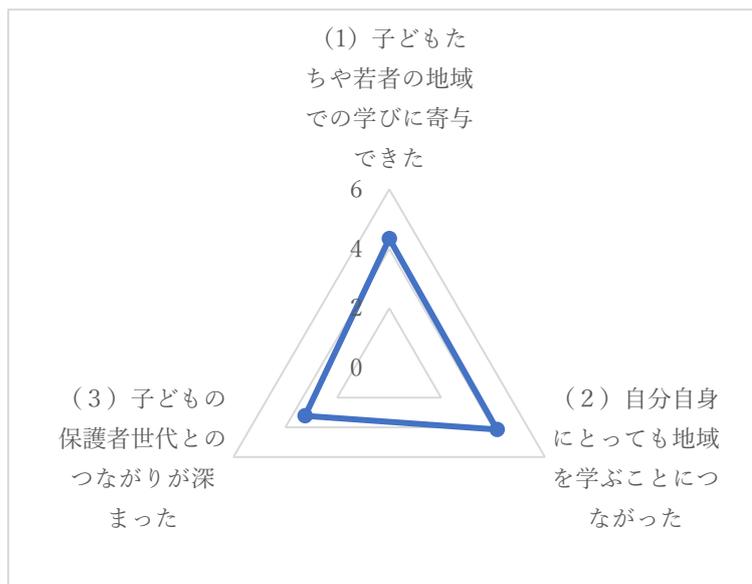


(5) 将来展望に対する認識や実感

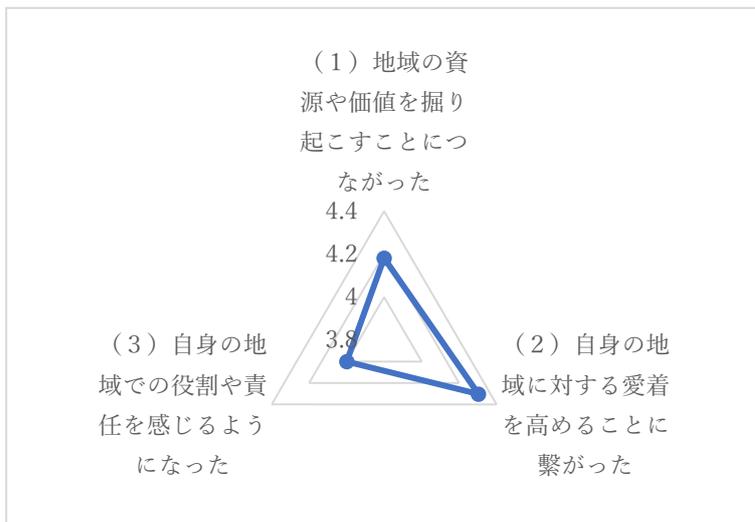


5-2. スパイダーウェブによる傾向解析 (全体)

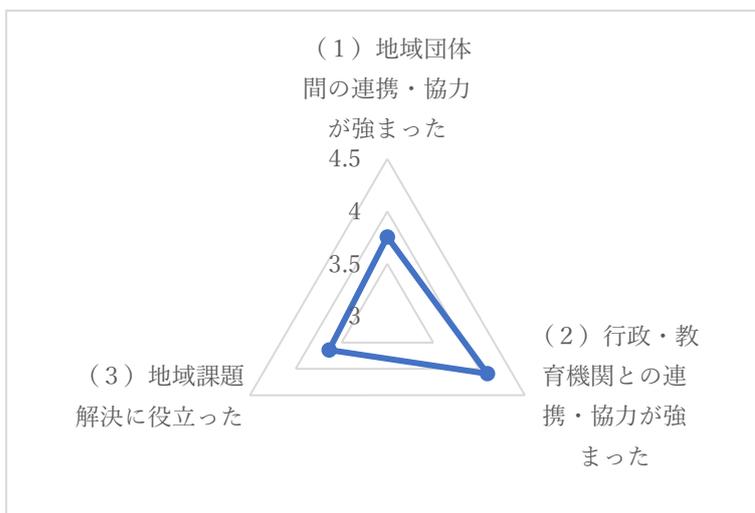
(1) 子どもたちや保護者に対する認識や意識 (全体)



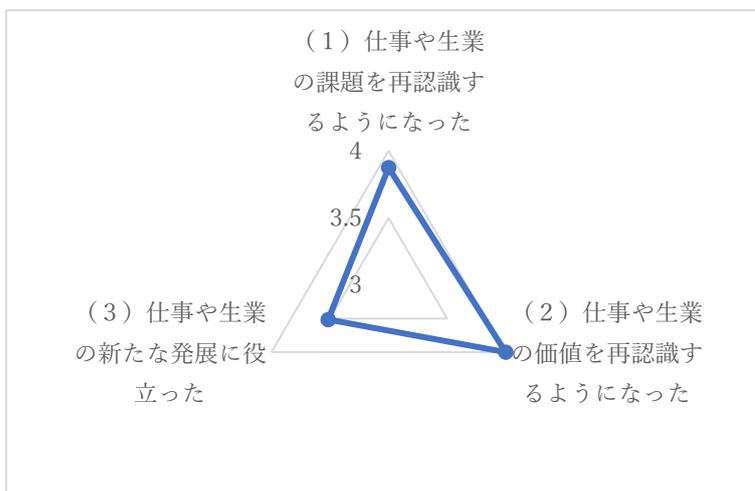
(2) 地域に対する意識変化 (全体)



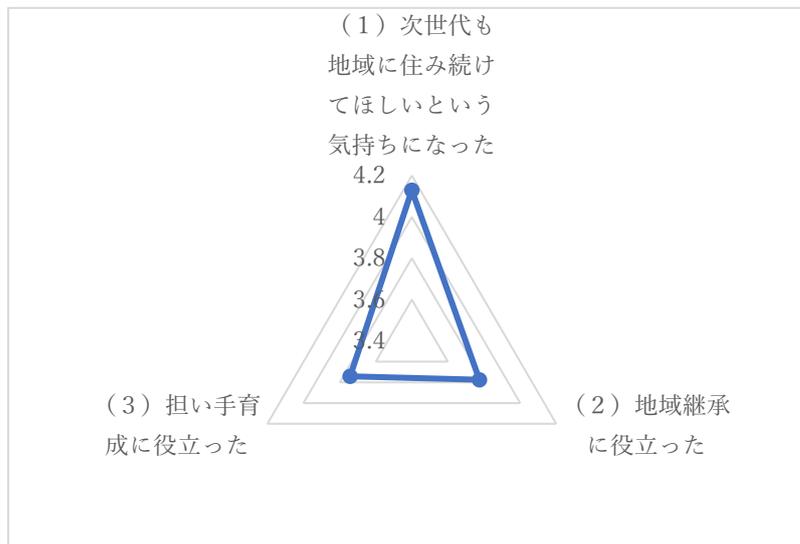
(3) 地域活動への効果に対する認識や実感 (全体)



(4) 自身の仕事や生業への効果に対して抱いた認識や実感 (全体)



(5) 将来展望に対する認識や実感 (全体)



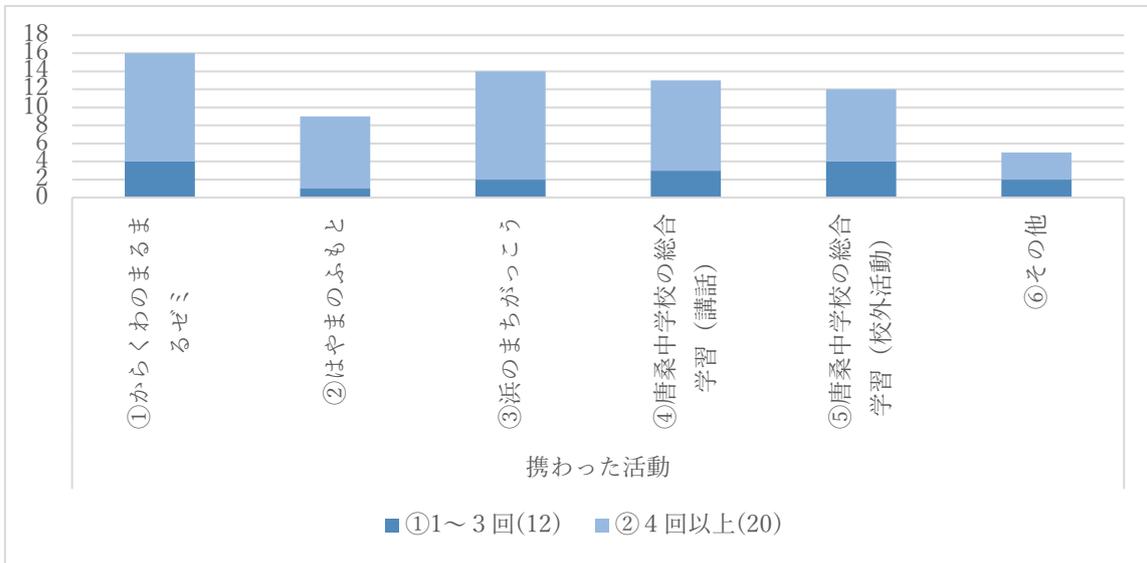
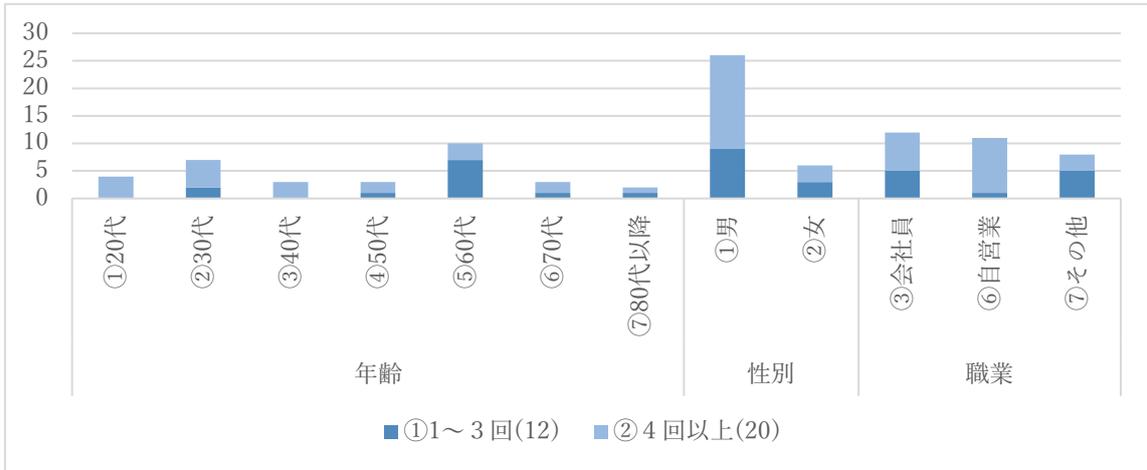
(6) 全体傾向 (全体)



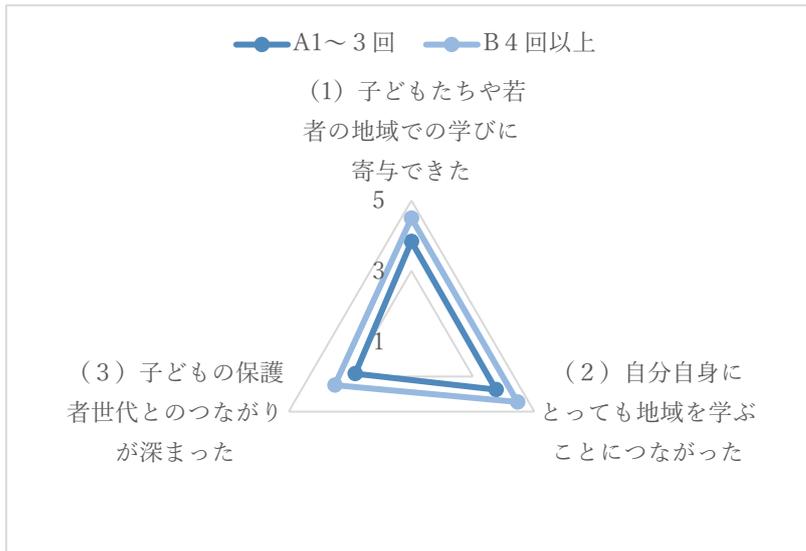
5-3 参加回数別のクロス集計

支援者がかかわった回数 (参加回数) に関して、1~3回までと4回以上の大きく2つの類型の回答が得られる結果となった。

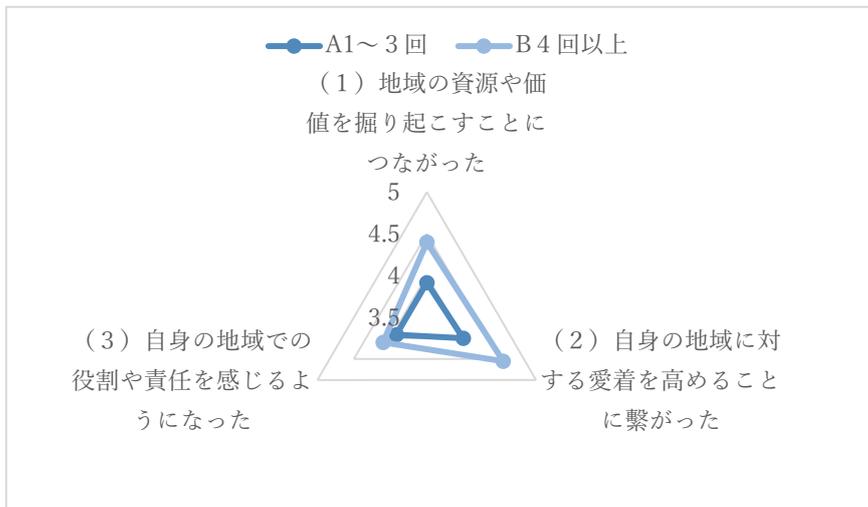
そのため①1~3回(12)及び②4回以上(20)といった参加回数別の傾向を把握するためのクロス集計を行い比較した。※ () 内は各総数。



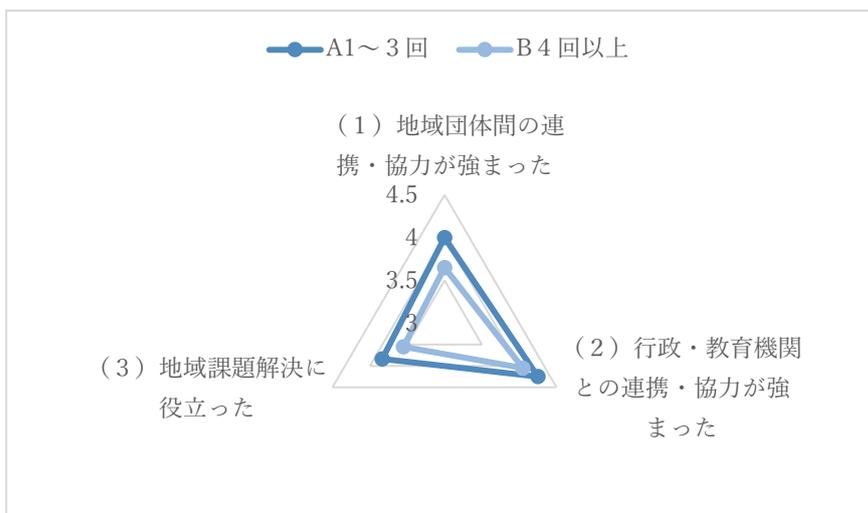
(1) 子どもたちや保護者に対する認識や意識 (回数別)



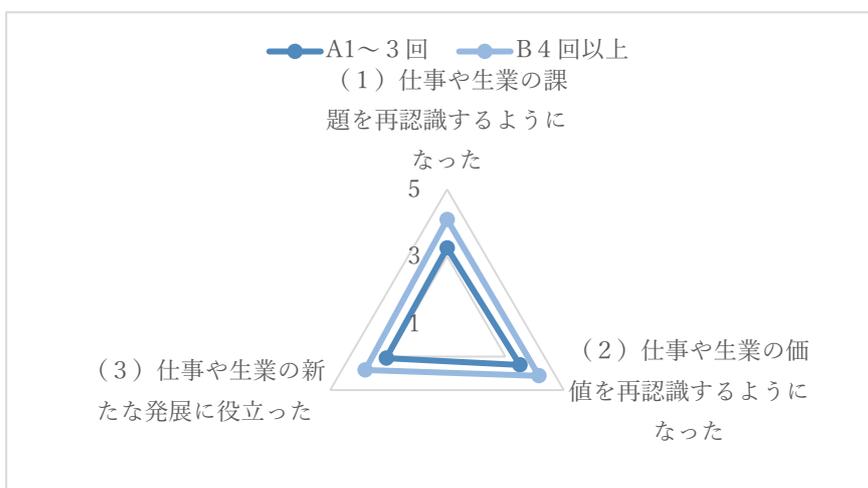
(2) 地域に対する意識変化 (回数別)



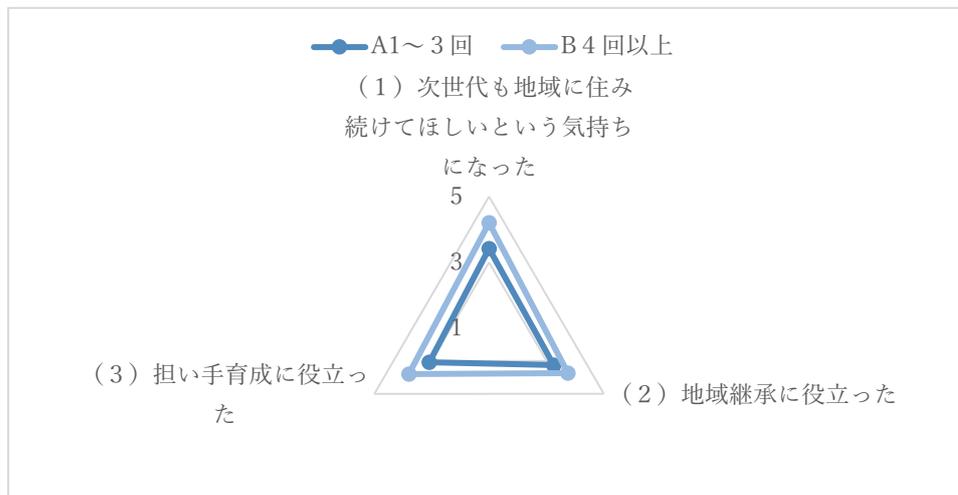
(3) 地域活動への効果にたいする認識や実感 (回数別)



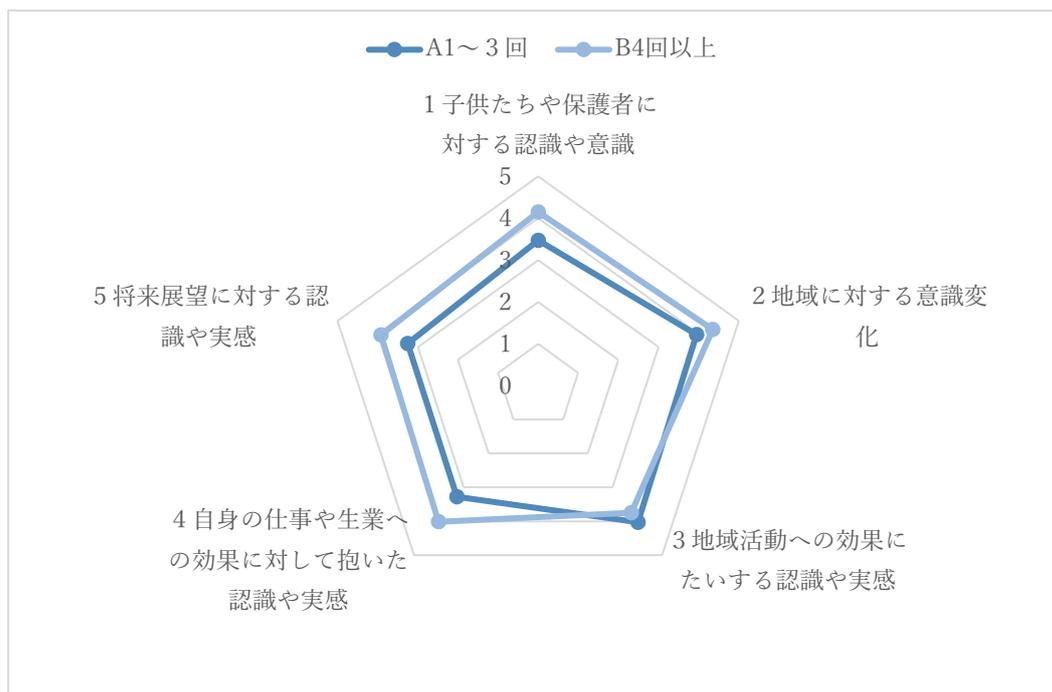
(4) 自身の仕事や生業への効果に対して抱いた認識や実感 (回数別)



(5) 将来展望に対する認識や実感 (回数別)

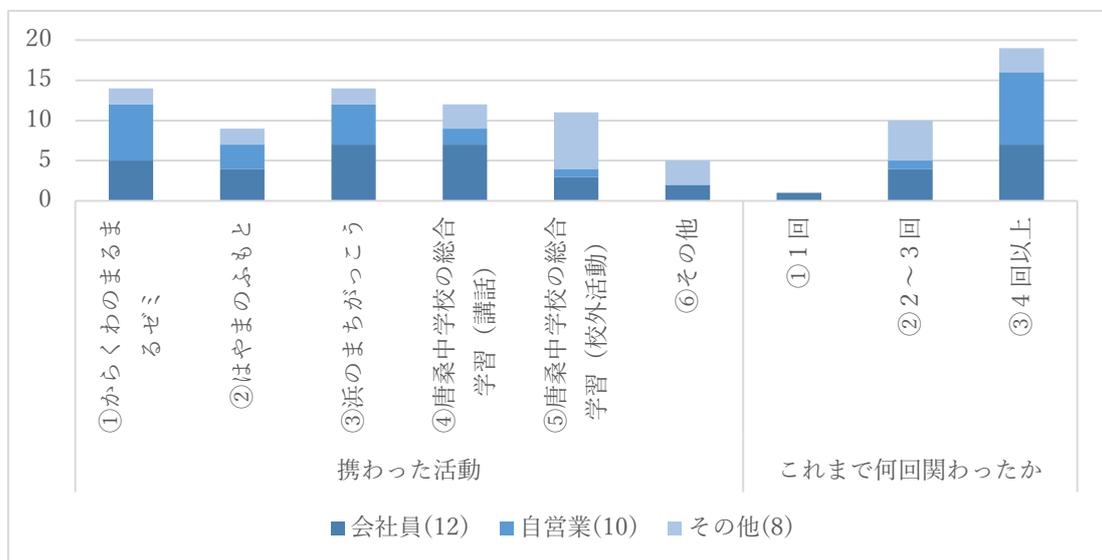
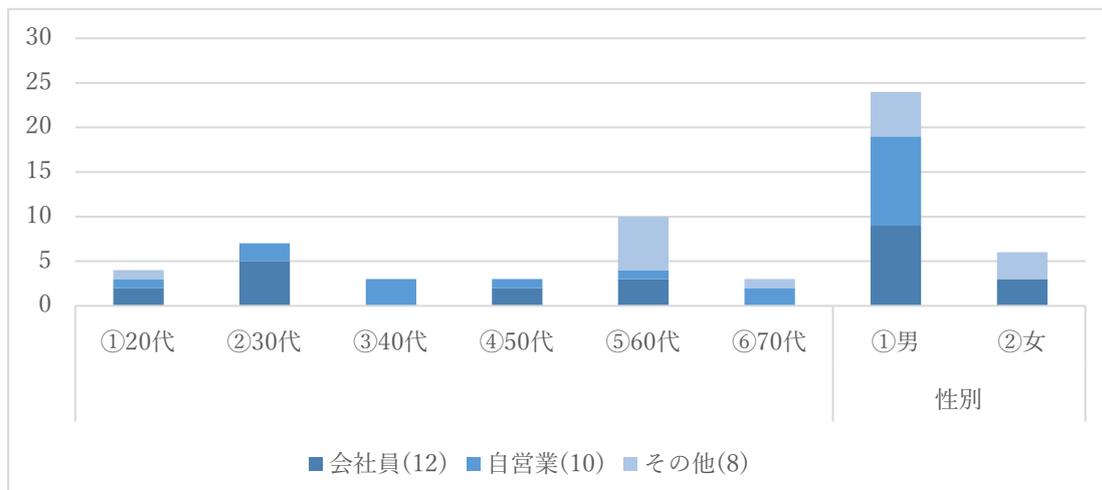


(6) 全体傾向 (回数別クロス集計比較)

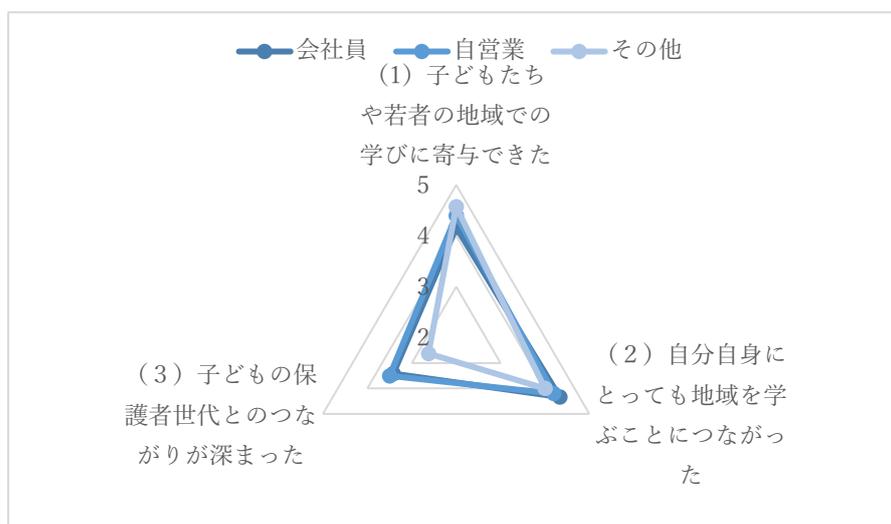


5-4 職業別のクロス集計

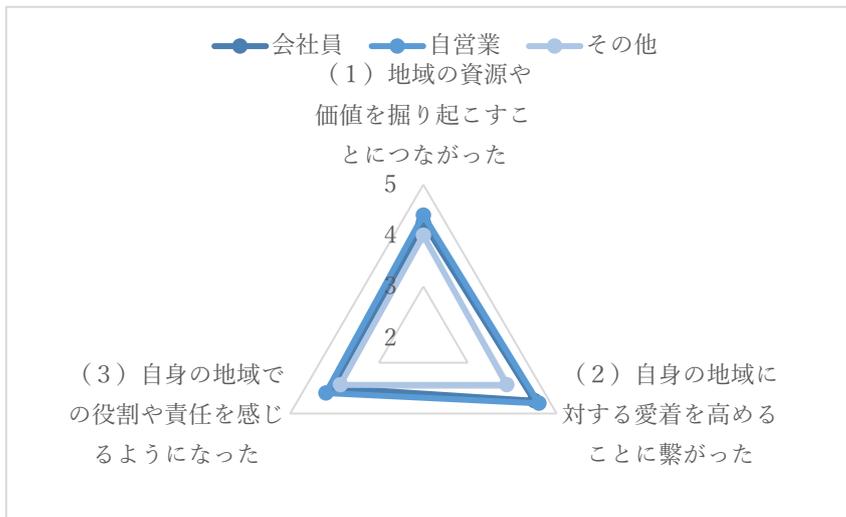
基本情報に関する職業別の回答結果から、大きく会社員、自営業、その他に大別された。その他は、公民館関係者や無職等といった属性であった。主婦の選択回答が1件のみであったため、その他に算定することとし、①会社員(12)、②自営業(10)、③その他(8)の職業別のクロス集計と比較を行った。※ () 内は各総数



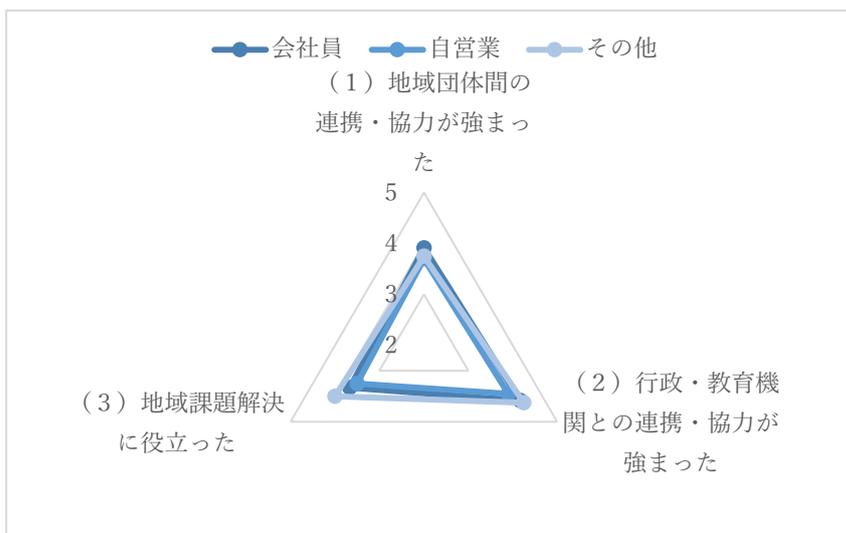
(1) 子どもたちや保護者に対する認識や意識（職業別）



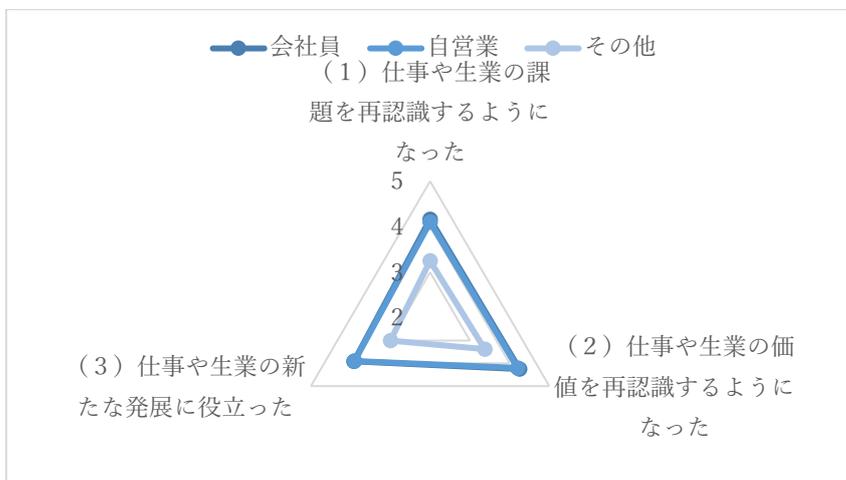
(2) 地域に対する意識変化（職業別）



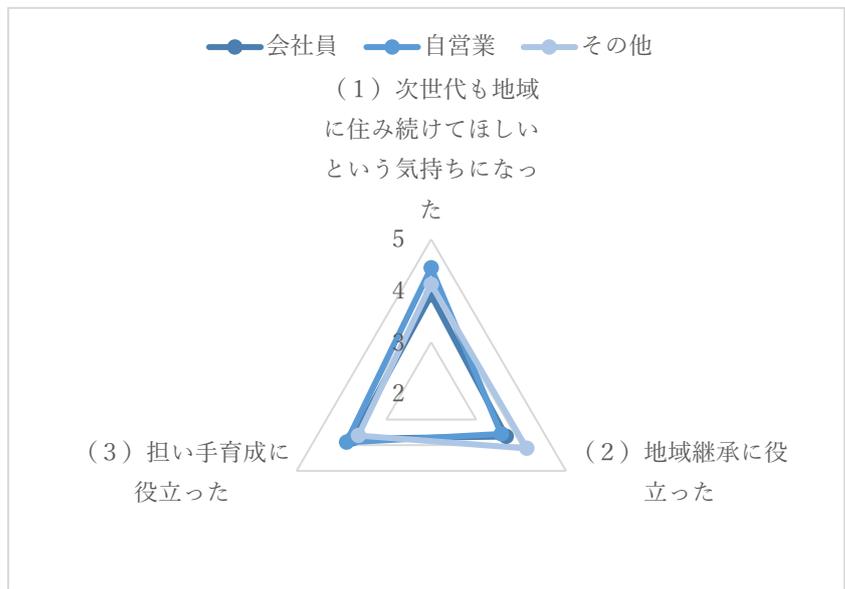
(3) 地域活動への効果に対する認識や実感（職業別）



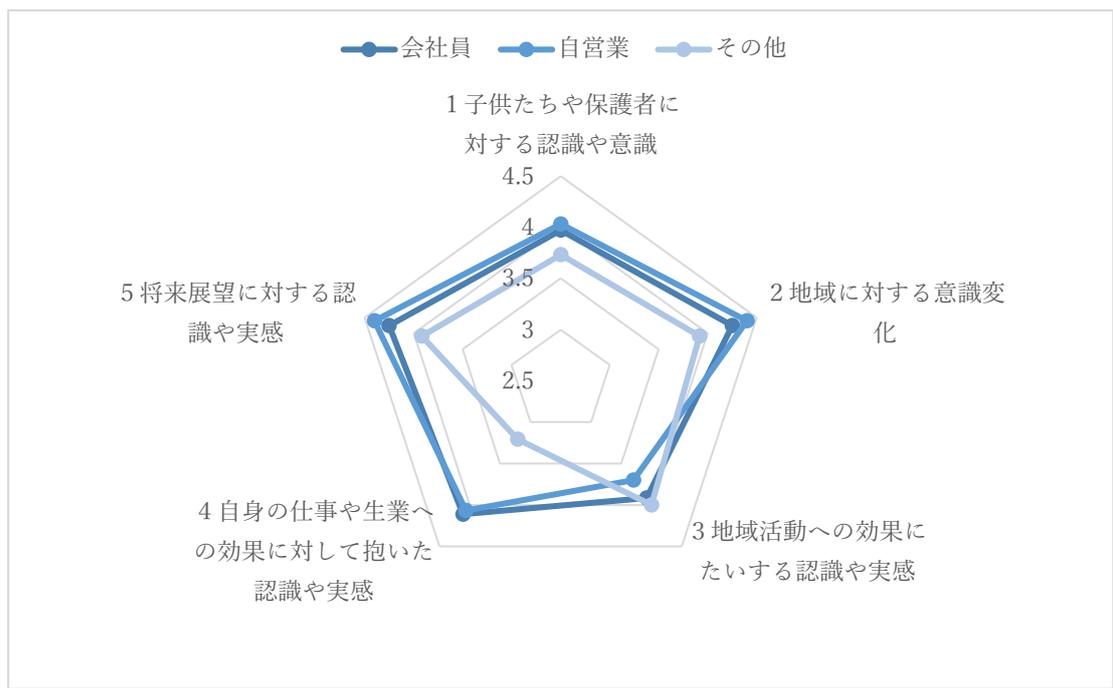
(4) 自身の仕事や生業への効果に対して抱いた認識や実感（職業別）



(5) 将来展望に対する認識や実感（職業別）



(6) 全体傾向（職業別クロス集計比較）



5-5 自由記述回答

自由記述「取組を通じて考えたことや意見」について、以下のような回答が得られた（ママ記載）。

- ・豊かな自然に親しみ、又導きたい。
- ・私たちが考えていた以上に子供達は地域のことについて興味を持っているようです。私達

自身が地域の良さを再認識する機会になった。将来、この子供達が地域に戻ってくることを願いたい。

・地域全体での取組がまだまだ足りないと思う。もっともっと出来るはず。なぜやらないのか？不思議だ。緊急の課題なのだ。

・移住者の若者たちの熱意には感心させられている。その熱意と若者らしい新たな発想に地域の大人たちが協力し、これまでにない事業が展開されている。今後も継続されるよう、関係者の連携・協力をお願いしたい。

・学習・体験活動により、今の子供達は視野が広がっていると思う。この活動を通じ地元愛が育まれて行く事を望む。そして、唐桑の未来を皆で考えれば良いと思う。

・力不足ですが、次回もご協力させていただきたい。

・これからも協力できる事があれば、協力しますので、地域のために、頑張ってください。

・自分自身は子ども達が活動を行なう際の安全面等への気くばりが優先し、活動内容についてまで、気を回す事が出来ませんでした。(立場上)ただ、子ども達にとっては新しい地域の発見になった事は確かだと思います。

・少子高齢化で、地域に元気がなくなってきている。地域の文化、伝統をもっと子どもたちや若者に伝えていかなければいけないと思います。(地域全体)

・震災後にこんな田舎にきてもらい一生懸命に子供達や町のため頑張ってくれて頭が下がります。これからもこの町の将来の為をお願いしたい気持ちです。よろしく。

・小、中、高時代から沢山の大人に出会うことの大切さを実感した。気仙沼の子供たちは恵まれているなあと感じた。もっと広げていきたいし深めていきたい。

・地域側の人間として、意外と地域について知らないという事に様々な体験を通して知った

・活動内容に関しては、生徒にとって良い学びとなったように感じるが、公民館、学校との対話が足りず、職員、教員が納得感を持って進めることが難しかった。

・地域教育の各種取組を通じて、地域の方の「子どもたちのために何かやりたい、でも何を？」に答えられる機会は多かったのではないかと感じます。

・自分自身田舎で生まれ育ってきてその田舎で生まれた子供にとってはどうしようもできない環境を自分の人生に置いてポジティブに捉えるかネガティブに捉えるかで大きく人生が変わってくると取組を通じて改めて感じました。

地域にとっていい意味での「異分子」が子供たちに与えている影響は大きいのではないかと考えていますし、自分だから地域の子供たちに見せることができる背中についても深く考えています。

・この取組を通じ、こんなにも地域の産業に興味がある子ども達がいる事を初めて知る良い機会になりました。少しでも唐桑の良さが伝えられて良かったです。自分が子どもの頃にもこのような取組があったら良かったなあと思いました。"

・継続と広がり期待したいし、少しでもお役に立ちたいと思う。

6. 所感と考察

以下に分析結果からの所感・考察を列挙する。

【全体】

回答者からは基本的に全項目にわたってポジティブな回答が得られた。特に「自身の地域意識の変化」に関して顕著にポジティブな回答が得られている。

【参加回数別比較】

参加回数別の比較では、参加回数が多い人ほどポジティブな回答となる傾向がある。ただし、「地域活動への効果に対する認識や実感」は、参加回数が多い人の方が、少ない人よりも消極的な評価となっており、逆転している。

【職業別比較】

職業別の比較では、会社員・自営業者共に類似の傾向がみられ、共にポジティブである。ただし、その他（公民館・主婦・無職）は、やや低い傾向を示しており、特に「自身の仕事や生業への効果に対して抱いた認識や実感」では、あまりポジティブな結果とはなっていない。

当調査の実施に当たっては、2017－2019年度日本学術振興会科学研究費助成事業（科研調査課題番号 17K14000）及び2019年度岡山大学・大正大学研究協定事業「参加型地域教育アセスメントの共同開発」の研究成果が活用された。

参考文献

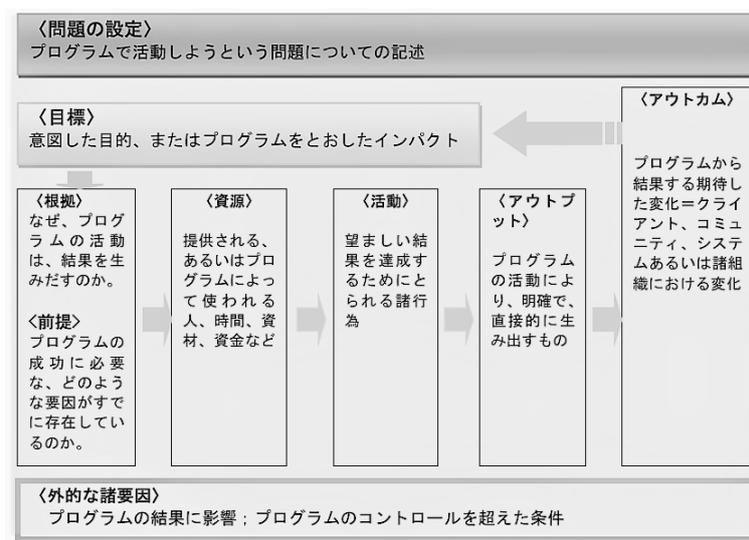
高橋満 2013『自助・互助・共助が支える福祉コミュニティをつくる～＜地域力を高める実践＞のための計画・評価ツール（第1版）』

高橋満 2019『ロジック・モデルで作る地域福祉実践計画～プログラムの計画と評価の指針～』2019年度大正大学 EMIR 研究会資料

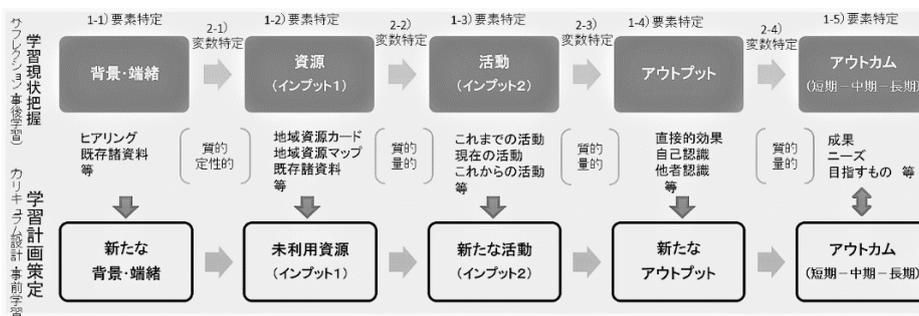
出川真也 2020「地域と学習者と共に実践するアセスメントと新たな教育的価値の創出」『エンロールメントと IR 第1集』大正大学エンロールメント・マネジメント研究所

資料編（ロジックモデルを用いた参加型アセスメント調査等資料）

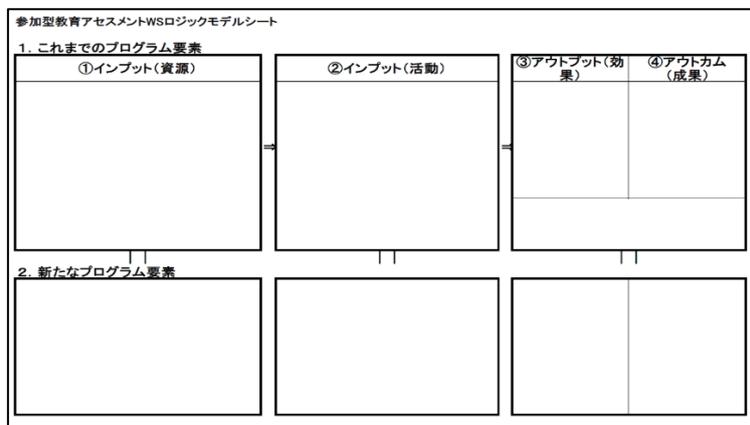
当調査は、調査の企画・設計・計画・実施・分析考察に至るまで、現地コーディネータ団体と調査対象者との参加型により進められた。調査に当たっては、大正大学と岡山大学との共同研究開発を行っているロジックモデルを用いた「参加型地域教育アセスメント」手法を試用した。関係資料と調査票について以下の通り提示する。



図表 8 ロジックモデルの諸要素（高橋満 2019 資料）



図表 9 ロジックモデルワークショップの検討事項と流れ（出川 2020）



図表 10 アセスメントワークショップで使用したロジックモデルシート（出川 2020）

(資料 地域学習支援者への調査依頼文)

子どもたちや若者に対する学習・体験活動に関する地域支援者意識調査(依頼)

2020年2月吉日

唐桑町まちづくり協議会 会長 戸羽 芳文
まるオフィス 代表理事 加藤 拓馬

余寒の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

お忙しいところ恐縮ですが、同封のアンケート調査に関して、以下要領にてご協力賜れますよう、何卒どうぞよろしくお願い申し上げます。

記

協力内容 同封アンケート(全3ページ)への回答

回答方法 アンケートに回答いただき、返信用封筒にて郵送
※送付先は集計を依頼している大正大学・出川研究室宛となっております。

締め切り 2020年2月28日(金)までにご投函をお願いいたします。

以上

当調査についてご不明な点や問い合わせは以下までお願いいたします。

一般社団法人まるオフィス(担当:加藤拓馬)

電話:080-1456-4251 メール:info@maru-office.com

(資料：調査票)

子どもたちや若者に対する学習・体験活動に関する地域支援者意識調査

2020年2月吉日

唐桑町まちづくり協議会 会長 戸羽 芳文

まるオフィス 代表理事 加藤 拓馬

唐桑町まちづくり協議会とまるオフィスでは、唐桑地域の子どもたちや若者たちに対する学習・体験活動を、地域の皆さん方と共に行ってきました。

この度、唐桑地域における地域教育に関して地域支援者の声を踏まえた今後の取組の方向性を検討したいと考えており、かかわりを持たせていただいた皆さんの意識調査を行うことといたしました。

お忙しいところお手数をおかけしますが、標準回答時間は概ね5～10分ほどです。何卒ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

※当調査の設計に当たっては、日ごろ当組織の活動に助言いただいている大正大学エンrollment・マネジメント研究所の出川真也専任講師による監修を受けました。

1. 基本情報についてお聞きします。(該当するものを○で囲んでください)

年齢	①10代	②20代	③30代	④40代	⑤50代	⑥60代	⑦70代	⑧80代以降
性別	①男		②女					
職業	①学生	②主婦	③会社員	④アルバイト	⑤フリーター	⑥自営業	⑦その他()	
携わった活動 (複数回答可)	①からくわのまるまるゼミ(漁師/農家体験など) ②はやまのふもと ③浜のまちがっこう ④唐桑中学校の総合学習(講話) ⑤唐桑中学校の総合学習(校外活動) ⑥その他()							
これまで何回 関わったか	①1回	②2~3回	③4回以上					

2. 子どもたちや若者に対する学習活動への支援を通じて、ご自身が認識し実感されていることについてお聞きします。(あてはまる数字に○をしてください)

(1) 子どもたちや保護者に対するご自身の認識や意識についてお聞きします

設問	①良くあてはまる ②当てはまる ③どちらとも言えない ④あまり当てはまらない ⑤全く当てはまらない
子どもたちや若者の地域での学びに寄与できた	① - ② - ③ - ④ - ⑤
自分自身にとっても地域を学ぶことにつながった	① - ② - ③ - ④ - ⑤
子どもの保護者世代とのつながりが深まった	① - ② - ③ - ④ - ⑤

(2) 地域に対するご自身の意識変化についてお聞きします

設問	①良くあてはまる ②当てはまる ③どちらとも言えない ④あまり当てはまらない ⑤全く当てはまらない
地域の資源や価値を掘り起こすことにつながった	① - ② - ③ - ④ - ⑤
自身の地域に対する愛着を高めることに繋がった	① - ② - ③ - ④ - ⑤
自身の地域での役割や責任を感じるようになった	① - ② - ③ - ④ - ⑤

(3) 地域活動への効果に対するご自身の認識や実感についてお聞きします

設問	①良くあてはまる ②当てはまる ③どちらとも言えない ④あまり当てはまらない ⑤全く当てはまらない
地域団体間の連携・協力が強まった	① - ② - ③ - ④ - ⑤
行政・教育機関(学校や公民館など)との連携・協力が強まった	① - ② - ③ - ④ - ⑤
地域課題の解決に役立った	① - ② - ③ - ④ - ⑤

(4) ご自身の仕事や生業への効果に対して抱いた認識や実感についてお聞きします

設問	①良くあてはまる ②当てはまる ③どちらとも言えない ④あまり当てはまらない ⑤全く当てはまらない
自身の仕事や生業の課題を再認識するようになった	① - ② - ③ - ④ - ⑤
自身の仕事や生業の価値を再認識するようになった	① - ② - ③ - ④ - ⑤
自身の仕事や生業の新たな発展に役立った	① - ② - ③ - ④ - ⑤

(5) 将来展望に対するご自身の認識や実感についてお聞きします

設問	①良くあてはまる ②当てはまる ③どちらとも言えない ④あまり当てはまらない ⑤全く当てはまらない
次世代も地域に住み続けてほしいという気持ちになった	① - ② - ③ - ④ - ⑤
地域継承に役立った	① - ② - ③ - ④ - ⑤
担い手育成に役立った	① - ② - ③ - ④ - ⑤

(6) その他、取組を通じて考えたことや意見など、自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

当調査についてご不明な点や問い合わせは以下までお願いいたします。

一般社団法人まるオフィス（担当：加藤拓馬）

電話：080-1456-4251 メール：info@maru-office.com